

PROMOTE THE WELFARE

BUSINESS LINE

NEWビジネスライン 9月号(隔月発行)

発行●(財)神奈川県経営者福祉振興財団
〒231-8525 横浜市中区元浜町4-32 ☎045-671-7101



TOPIC & KEYWORD

東京電力の23年 3月期決算に学ぶ

経営戦略

ソーシャル メディア

お答えします

資産除去債務に 関する会計とは?



救急キットF+A

かながわの元気な企業

株式会社 エル プエンテ インターナショナル

社会貢献ビジネスとして、事業を展開する同社。
「提供表示シール式・救急キットF+A」開発
秘話と、社長の想いとは。



9

September 2011
vol.78

株式会社 エル プエンテ インターナショナル

http://elpuenteintl.com/

代表取締役

藤原公生

Kimio Fujiwara



JR横岸線山手駅から車で5分ほど丘を登った、閑静な住宅街のマンションの一室に事務所を構える同社。

2006年8月の創業以来「助け合うビジネス」をテーマに、社会貢献事業を展開してきた。

しかし、NPO法人ではなくあえて株式会社として設立したのは、利益を出していくことで「若い人たちに1つのビジネスというものを理解してもらい、「社会に貢献する意識」を持ってもらいたい」という藤原社長の強い思いから。

また、「提供表示シール式・救急キットF+A(通称FA・エフエイ)」のロゴマークは、社長自らが100以上のデザインを起し、試行錯誤を繰り返して生まれた。製品化後、特許申請と商標登録も済ませ、さらに今後の展開も見据えて、健康に関する製品で著名なピップ株式会社とのタイアップ契約も結んだ。このことにより、さまざまな垣がりのある事業展開が可能となった。

提供するという社会貢献を目的とした唯一の救急キット・FA。この全ては同社長が10年前から温めていたものだった。

“所持することで社会に貢献する” というアイディア

藤原社長は自ら心理学を学び、ボランティアとしてセラピーを始めた頃より、近所の人や自殺志願者、病気で辛い思いをしている人などから様々な相談をされるが多かった。相談中には、さまざまな話しをすることで前向きになる方も、帰宅後は再びふさぎ込んでしまうことが多く、これを何とかしたい、という思いがありました。

また、近くで事件や事故が起きてケガ人がいても、ただ見ているだけ。さらには携帯電話で写真を撮る人すらいる。このような現実を目の当たりにした時に、「もっとお互いに関心を持ち、助け合う心を持たなければ」と強く感じました。そして、人の心を変える「マインドチェンジ」を実現することができれば、悲惨なことを減らせるのではないかと考えたのです。

さらに「所持することで人の心を変えることができるもの」、「1人になっても、それを持っていれば何かが変わるもの」を開発したい、とも強く思いました。ケガ人が近くにいる場合、「助けたいけれど何も持っていないならば、応急処置さえできない」と思われる方は多いかもしれません。しかし、もし救急キットを持っていたらどうでしょうか。一目見ただけで分かるステッカーの貼付で、救急キットの存在を知らせ「助け合う心」を示すことにより、「助け合う街」を造ることができないか。そんなコンセプトから生まれたのが、この「提供表示シール式・救急キットF+A(通称FA・エフエイ)」です。

苦節10年

10年前の立案当初から、ある程度のイメージは固まっていた。もちろん、救急キットなので内容は決まっていたが、実用面やコスト面との兼ね合いもあったため大変苦労しました。

まずケースは、車両や店舗への設置だけでなく女性が抱に入れられる、またはベビーカーにぶら下げられる位のもの。ロゴデザインも含めて、「女性に受け入れられる製品」を前提に製品化し、その上で実用性も考え、ケガをした場合にケース自体が、添え木の代用になるものを考えました。中でも消毒液は、車の中で2年間保管することを前提にいろいろな種類のもので実験を行ったため、最終的な決定までに多くの年月を要しました。

また、関係省庁には何度も足を運び意見や指導を受け、消防庁からは、人工呼吸用フェイスシールド導入のリクエストがあり、それにも応えました。こういった地道な製品選定や折衝がほんとうに大変で、「素晴らしい製品ですね」と言っていたくまでには、数年を要することとなりました。おそらく普通であれば、途中で心が折れてしまったと思います。「人々が助け合える心を持つ世の中をつくる」という使命感と情熱があったからこそ、さまざまな壁を乗り越えられました。「儲けること」を考えていたら、絶対にできなかったはず。今ではこの時代にFAを製品化したことを責務と感じ、尽力しています。

導入の輪、東日本大震災、そして…

2年前にFAが完成してからは、CSR(企業の社会的責任)としての製品価値を積極的に打ち出し、様々な企業に導入の契機提供を行ってまいりました。いち早く賛同があった「横浜ベイスターズ」では、選手やスタッフへの導入をいただくことができ、横浜市中区の麦田町交差点(商店街)では、各店舗にFAを設置し安心できる商店街づくりを進めています。行政では、栗野市消防本部での導入等、運輸業をはじめとした各種企業、団体の車両・店舗・施設への導入も広がっています。

また、多くの被害をもたらせた東日本大震災で、当社を取り巻く環境はさらに変化しました。震災直後に消毒液不足に起因する破傷風が流行ったこともあり、取り急ぎ被災地に150個のFAを送りました。現在はNPO法人と協力して、避難所以外へのFA設置の調整を進めると共に企業、団体からのご連絡も多く神奈川県外でのFA導入の輪が広がっています。

今後の取組みとしては、まず第一に地元横浜、神奈川での活動を中心とした「助け合う心 マインドチェンジ」の輪を全国に広げていきます。今年7月より正規代理店の増設を図り、横浜から全国へ向けてFAを届けます。そして第二に、「FAのブランド化」を目指します。現在、ロゴマークを入れたTシャツ等の制作準備を進め、この販売からの寄付への仕組みづくり(ソーシャルアドバンテージ・ブランド)を行っています。そして、「FAグッズ」の製品化も検討しており、アクセサリーやベットの首輪に装着するポシェット型のFA等が次期の計画です。

今後、当社の社名「エル プエンテ」の通り、「人と人との架け橋となり、人々が以前の様に互いに助け合える心を持つ世の中をつくる」という目標に向かって、事業を展開してまいります。

株式会社 エル プエンテ インターナショナル 事業内容 ● 社会貢献商品の開発及び企画、プロデュース
〒231-0851 横浜市中区山元町5-224-2-101 Tel.045-662-4418 Fax.045-641-2055